

国土地理院入札監視委員会 第2回定例会議議事概要

開催日及び場所	令和元年12月18日(水) 国土地理院関東地方測量部会議室		
委員名簿	委員長 <small>かわい りゅうた</small> 川合 竜太 (弁護士) 委員長代理 <small>ささき なおひこ</small> 佐々木 直彦 (公認会計士) 委員 <small>おぐち たかし</small> 小口 高 (東京大学 空間情報科学研究センター/教授) 委員 <small>あらや あきと</small> 新谷 昌人 (東京大学 地震研究所 附属観測開発基盤センター・教授)		
審議対象期間	平成31年4月1日～令和元年9月30日		
抽出事案	6件	(備考)	
測量業務	3件	審議案件は別紙1のとおり	
内訳	簡易公募型 競争入札方式		1件
	簡易公募型 競争入札方式 (総合評価落札方式)		2件
物品・役務	3件		
内訳	一般競争入札方式		3件
委員からの意見・質問、それらに対する回答等	意見・質問	回 答	
		別紙2のとおり	別紙2のとおり
委員会による意見の具申又は勧告の内容	なし		

審議案件詳細

【測量業務】

	入札方式	測量業務名	業務種別	手続への参加資格及び業務実施上の条件を満たす参加表明書の提出者数	入札参加者数	契約締結日	契約の相手方	契約金額 (千円)	落札率	備考
①	簡易公募型競争入札方式	電子基準点現地調査(福島地区)	基準点測量	12	10	令和元年7月8日	株式会社東日本建設 コンサルタント	2,508	49.8%	
②	簡易公募型競争入札方式 (総合評価落札方式)	準天頂衛星システムを活用した測量の精度 確保に関する観測・評価業務	基準点測量	1	1	令和元年9月24日	株式会社パスコ	21,065	91.9%	
③	簡易公募型競争入札方式 (総合評価落札方式)	高精度火山標高データ整備(御嶽山、浅間 山地区)	写真測量	5	4	令和元年6月27日	国際航業株式会社	36,300	95.4%	

【役務の提供等及び物品の製造等】

	入札方式	業務名	業務種別	競争参加資格を確認した 者の数	入札参加者数	契約締結日	契約の相手方	契約金額 (千円)	落札率	備考
④	一般競争入札方式	航空重力測量実施のための航空機運航関 連業務	役務の提供等	1	1	平成31年4月11日	共立航空撮影株式会 社	563,760	99.7%	
⑤	一般競争入札方式	国土地理院Webサイト改良業務	役務の提供等	1	1	令和元年9月27日	彼方株式会社	5,775	58.8%	
⑥	一般競争入札方式	電波干渉対策GNSSアンテナの購入	物品の製造等	2	1	令和元年9月19日	株式会社ニコン・トリ ンブル	10,725	72.2%	

意見・質問	回答
<p>1. 定例報告</p> <p>(1) 入札方式別発注案件一覧表 (測量業務、役務の提供等及び物品の製造等)</p> <ul style="list-style-type: none"> なし <p>(2) 指名停止等の運用状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 「空中写真画像の地理院タイルデータ作成業務（北海道・東北地区）」について、作業遅延となった理由は何か。 納品されなかった場合はどうするのか。 損害が発生しているのではないか、賠償請求は検討されたのか。 <p>(3) 談合情報等への対応状況</p> <ul style="list-style-type: none"> なし 	<ul style="list-style-type: none"> 人員の配置が出来ず、作業の進捗が遅れたため納品出来なかったものである。 契約を解除し、新たな契約として、一般競争入札を行うことが主である。 一番困るのは時間が空いてしまうことであるが、お金の換算するのは難しい。賠償請求はしていないが、契約解除は契約金額の1割を損害金として徴収している。
<p>2. 抽出事案の審議</p> <p><測量業務></p> <p>簡易公募型競争入札方式</p> <p>① 電子基準点現地調査（福島地区）</p> <ul style="list-style-type: none"> 企業の評価はどのように行うのか、提案された書類は国土地理院で評価する仕組みなのか。 項目に対する記述が抜けていた場合はどうするのか。 契約後に、技術者の資格をチェックする仕組みはあるのか。 予定価格に対して、安い価格が5者いる。予定価格は積算基準に基づいているが、積算基準が実態に合わないのではないか。同種業務でも同じ状況があるのか、感覚的にどうか。 積算基準の変更は、一般的にはどのようなやり方なのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 評価の項目と点数は全て公開され、企業は知ることができる。例えば、業務実績がある場合や過去の国土地理院業務実績の成績を加点し評価する。 評価できないものがある場合は、その項目は0点になる。 業務着手時に面談して打合せを行う。業務計画書を提出させ、確認する仕組みになっている。 電子基準点調査業務は、予定価格よりも低めで落札していると感じている。しかし、それぞれの会社が、いろいろな努力によって安い価格で落札していると感じている。 電子基準点調査業務の積算基準は、歩掛という形で、一定の作業をした場合幾らになるという基準を公表している。積算基準が入札動向と

簡易公募型競争入札方式（総合評価落札方式）

② 準天頂衛星システムを活用した測定の精度確保に関する観測・評価業務

・今後も同じ内容の業務で、何年か続けられるのか。

・1回落札した者が経験を積んで有利になり、今後も1者応札になる見通しか。

・他の事例でも1者応札があるので、どうするのか共通の課題ではないか。

・先ほどの企業の評価方式と、同じなのか確認したい。実施方針と技術提案の履行確実性はどうか評価されるのか。

・評価の途中の段階に任意性があると思うが、客観性とか審査の基準はどうか。

簡易公募型競争入札方式（総合評価落札方式）

③ 高精度火山標高データ整備（御嶽山地区、浅間山地区）

・レーザレーダ測量は典型的な写真測量とは違うように思うが、業務種別は他に何かあるか。

・写真測量で評価した場合、レーザレーダの新しいものがどこまで対応しているのか。

・同じ写真測量でも、技術進化に対して適切に技術点をつけるところがもう少しあってもいいのではないか。

・価格差を技術点で上回っているが、価格点の設定が予定価格の約7割で、ほとんど技術点で左右されることになる。オーバースペックで高い契約と、技術力はそこそこで安い契約と両極端になるのではないか。ある技術以上であった

大きく乖離しているということであれば、その調査をして、歩掛の改定も必要になると考えている。

・5年計画の予定で技術開発を行う業務であるが、縮小する場合もある。

・今後は、測量にどのように応用するのかという段階になり、同じ内容で実施する計画ではないので、同じ事例になるとは考えていない。

・共通の課題である。毎年、入札契約をするのがいいのか、何年間かまとめた方がいいのか、制度上の問題やその業務に応じた特性の判断が必要である。

・実施方針は、当該業務の目的を示しているか、観測の精度管理について具体的に示しているか、観測結果の評価について具体的に示しているかの3項目。もうひとつ、工程計画が正しく必要な期間を取っているか、加点し評価する仕組みである。

履行確実性の調査は、技術提案内容の実施の確実性について、電話等でヒアリングを行い評価する仕組みである。

・3人の評価者が、評価基準に基づいて確認する。場合によって評価点が違う場合もあるが、その場合は平均点をとっている。

・業務種別は、「基準点測量」、「写真測量」、「地図調製」、「地理調査」の4種別である。

・航空機を飛ばして、航空機等の位置を測定しながら計測を行う。精度管理の内容は、写真測量そのものである。

・業務の実績に関する評価項目で対応しており、今のところ、問題になるところはないと考えている。

・技術点は、会社と配置予定技術者の業務実績等と技術提案（業務理解度）で評価している。全ての会社がきちんと業務を理解していれば技術提案で差はつかない。業務理解度が足りない会社は、ご遠慮いただくという趣旨である。配

<p>ら、価格差でやる方が競争性が高まり、新規参入も増えるのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・価格点は、技術点と比べ意図的に低くなるように設定されているということか。 ・価格点の比率は案件によって変えるのか、決まっているものか。 	<p>置予定技術者は、技術者そのものの実績であり、技術者の努力で加点される。技術を一番高く評価するものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務の実績や技術を持っている者を評価している。評価のバランスを含めて、偏重しているところがあれば、ご指導願いたい。 ・国土交通省で統一されたものである。
<p><物 品・役 務></p> <p>一般競争入札方式</p> <p>④ 航空重力測量実施のための航空機運航関連業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4年の複数年契約でメリットはあるが、セスナ機と操縦士等を4年間将来に渡って確保することは、逆に門戸を狭めていないか。 ・航空重力を全国展開するのは初めてだと思うが、1～2年行って、運用の修正や改善が必要になった場合はどうするのか。 ・長期的な計画を持っていると思うが、4年行った後、同じように全国調査を行うのか。 <p>⑤ 国土地理院Webサイト改良業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・改良するシステムの商品名が特定されている。よく使われているということだが、商品名は出さないようにするなど、このケースは問題ないか。ルールとして、特定の商品名を出しても問題ないということか。出さざるを得ない場合もあるということか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画の計算上により、4年間で行うことが最も合理的であったものである。 ・幾つかの条件を緩和している。セスナ208はベストセラーで特殊なものではない。アンテナを設置するため、若干の改造が必要だが、航空機を持っている会社、運行実績があれば高いハードルではない。 ・飛行コースを設計し晴天率などを考慮して、合理的な計画として4年間とした。最も心配なのは天候障害である。天変地異は避けられないが、4年あれば、滞った場合、逆に早まる場合にメリハリをつけて最終目的をクリアできると考えている。 ・繰り返しの測量は想定していない。水準測量の場合は、地震などの影響があった場合もう一度行う必要があるが、このジオイドは地球全体の重さから計算されるので、地震の影響はなく丈夫な基準である。4年で終了する予定である。 ・このシステムを使っている会社がたくさんあることは確認している。現在のサイトは1万頁以上あり、そのうえにコンテンツが構築されている。違うシステムで新しく構築すると、5千万円程度の費用が必要になる。予算の制約があり、このシステムを使わざるを得ない状況である。物品を購入する場合は、同じ精度のものがいろいろあり、性能だけを書いても分かりづらいので、物品名を書いて相当品として限定せず発注している。今回の場合は改良なので、システムが分からないと参加できないので問題はない。

⑥ 電波干渉対策GNSSアンテナの購入

・ 辞退了者がいるが、辞退了理由は何か聞いているか。

・ 辞退了者はアンテナを製造しているところではないが、今回、アンテナ15式を調達するのが困難であったと聞いている。